

しんぶん つむぐ

『筋ぐ』

2022.2.15 第36号
発行 教育相談室「あした塾」



(夜に雪が降り、冷えた朝の山はまるで珊瑚礁のよう)

新型コロナウイルス

オミクロン株を見ないで! 早く見ないで!



新型コロナウイルス株の猛威は止まません。しかし、「オミクロン株は重症化リスクが小さい」「症状はカゼに近いから普通のカゼ」「今は大のではないか」などの情報のある中、軽く考えている人も少なくありません。でも、ちょっと待ってください。最前線で治療にあたっている病院の先生方は「重症化しないわけではなく、流行が拡大すると高齢者や基礎疾患のある人など、重症化リスクのある人の感染が増えてきます。感染対策を続けることが大切だ」と指摘しています。

また、デルタ株と並んでオミクロン株は子供ほどんどん感染しています。オミクロン株の感染者は、当前のアルファ株の3倍、デルタ株の1.5倍と言われています。(デルタ株の2~5倍というデータもあります・東大など) しかも、オミクロン株は感染してから2日程度の短い期間で次々と感染を広げていきます。ワクチンも不十分ですし、治療薬も開発途中です。まずは基本的な感染対策(マスク、手洗い、咳い消毒、密を避けるなど)をして生活をしていかなければいけません。



この新型コロナウイルス、いわ。

どこで、だれが感染するかわかりません。感染者が出来たときに、「誰や、誰や」とか「何してやが」、とか病気には本人を非難したり、面白おかしく話したり、不確かな情報をSNSで流したりといふことは厳しくフレはよくではないけれどと思われます。想像してください。いつ、かねば同じ状況におかれるとかわからせんから。

穴水門前の風力発電反対

北陸中日・北國新聞とも2月5日付新聞で穴水門前(下高岡・大角間・桂若・越渡周辺と門前町定山・森長井坂)で計画されている風力発電事業が廃止されたと報じました。リユース・ジャパン(東京)担当者は「住民の声も受け止め廢止を判断した」(同紙)と語りました。



とはいっても、能登半島では、既に12の風力発電事業が計画されているそうです。

穴水町観光

宇留地

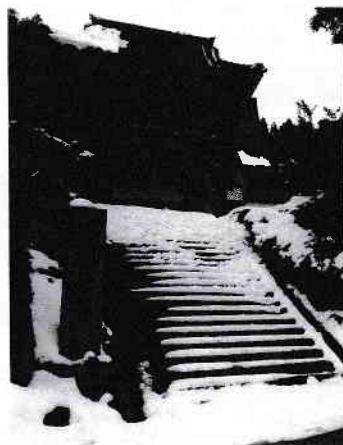
山の石垣

宇留地、山玉川が流れ三岩橋
のたもとにある西福寺の石垣は
城の石積みを思わせる立派なもの
です。昔、西福寺が河内の寺山から
現在の地に移る前は、この地の豪族
茂右衛門の屋敷跡だかと伝えられ
ていて、元々以前は宇留地長氏の館跡であつたとのことです。
この石垣は文化13年(1816)から4年かかりで完成したと
伝えられています。現在の場所到着後にあつたものを遷びおろ
したものとも伝えられています。茂右衛門は天和2年(1682)
からキリシタンの邊境公処刑され、元々以前の宇留地長氏
も寛政5年(1665)から「浦野事件」で家族断絶しています。
(以上、岡本伊佐夫編著「おほぞく百物語」とり抜粋)

82. この西福寺の石垣は「二重に造らされている」とか文化

賤級の豪傑なもの」と言われ
ていますが、15年前の能
登半島地震で大きく崩れ
現在の石垣は修復されたもの
です。ご存知の話では、石
垣は二重にはなっていません
が、石垣としては普通の
ものだよとのことです。

これはこれまでの観見方
が、いろいろな言い伝えには
それなりに根拠があつたのだ
と思われます。ほら、浦野事件
は調べやうおもしろいですよ。



能登トキアソブクラ



トキアソブクラ

能登トキアソブクラが正式に発
足してから1ヶ月余りになりますが、
2月1日現在で会員数は103
名になりました。この能登の地
に再びトキの舞り姿を見たい
という社友計画を実現させる
ためにも、今後も多くの方が入
会される期待をされます。

この会は動き始めたばかり
ですが、当面は理事5名で協
議しながら活動を進めていき
ます。

トキアソブ組織

会長	宮下源一郎
副会長	吉村扶佐司 出村海和
会計	新田耕司
監事	吉村扶佐司 滝井弘之
顧問	北村茂男
相談役	村本義雄

2月2日付北国新聞は、県議会で
大本知事が佐渡以外でのトキ放
鳥を目指す事業着手を議論する方
針を明らかにしたと報じられました。

トキアソブは5月に「トキKつば
祭ぶセミナー」を羽咋市で開催する
予定です。学校・自治体への働き
かけを行います。詳細は別途。
(能登トキアソブクラ事務局より)

